

ニッタクとラージボールの歩み

ラージボールは昔からあった「卓球の種類」ではありません。

競技として産声を上げたのは、1988年(昭和63年)。日本卓球協会の故・荻村伊智朗氏が発案。子どもからお年寄りまで気軽にラリーを楽しめる「ラージボール」という競技がスタートしました。



様々な色、サイズ、重量の試作品から、オレンジ色、44mm、2.2gが選ばれた



1988～2013年

初代ラージボール公認球



2013～

非セルロイド化に伴い、
世界初のプラスチック製公認球が
誕生



2021～

世界初の抗ウイルス・
抗菌仕様公認球が誕生

ニッタクの挑戦 試行錯誤の末に開発

このラージボールの発案時、ボールの研究開発に携わったのが、ニッタクです。誰でも簡単にラリーが続けられ、風船を打つ感覚を目標に開発に挑みました。サイズは当時の硬式卓球が38mmだったこともあり、40、42、44、46、48、50mmの2mm間隔で、同時に赤、黄、青、緑、オレンジ、ゴールド、シルバー色のセルロイドを製作。それぞれのサイズとカラーとで重量別に2.0～5.0g位の試作ボールを作り、研究、試行錯誤を繰り返し、苦難の末にラージボールができあがりました。

誰でも楽しめる ラージボールが誕生

硬式卓球とは違いボールのスピードを遅く、ボールの回転をかけにくくすることで、ゆっくりと打ち合うことができ、初心者でもすぐにラリーを楽しむことができます。上級者同士ではポイントを取るための緻密な組み立てが必要で、スピード重視の硬式卓球とは違う奥深さもあります。

全国各地で講習会を開催し 普及に貢献

3世代で楽しめるラージボールは、年々人気を高めています。ニッタクは、全国各地での講習会をはじめ、国内のみならず、韓国やグアムなどで大会を開催し、ラージボールの認知を広げる取り組みを行っています。

また、ラージボール製品開発のパイオニアとして、ラケットやラバーなど、ギアの製品開発にも注力し、改革してきました。さらに、安全・安心に楽しめる環境を目指して、抗ウイルス・抗菌加工による製品の安全性強化を図っています。幅広い楽しみ方ができるラージボール。趣味として、チャンピオンを目指して、健康で明るい生涯スポーツとして。楽しみ方はあなた次第です。